



さっぽろ

郵便振替 小樽 1-5770 あごられ塊

NO. 178

あごられ塊連絡先	今月通信担当
細田(011-644-2922)	細田英理子

### 今日の内容

11月編集会議報告	… 1	忘年会案内	… 4
あごらと私	… 2.3.4	女のからだから	… 5
福島瑞穂講演	… 4	フォーラム	
		小さな一步	… 6.7
		情報	… 8

1993.12.1 発行

通信費請求料 1940円(年間)

これからのが“あごら”に

11月

について

編集会議

報告

11月の編集会議は夜遅くまで「これからのが“あごら”をどうするか」等、いろいろな話がされました。

最初に「例会がないのは寂しい。今のメンバーは他の活動で忙い人も多いし、入門編のようなあごらはもう必要としていないかもしねえ。しかしこういふ場を求めている人はいつの時代でもいねすいる。昼間、集まりを持てたらと思ってる」「他の活動も忙いし、前程あごらにエネルギーを注げない。今、通信編集に関してるのはほんの4~5人。これに費すエネルギーは結構なものである。来年からは隔日発行にしたらどうか?」等の意見が出た。これに対して「スペース“あん、はい”い3行動していくところ。すぐにはそういう行動体に入つていけない人もいる。いろいろなことをぐちゃぐちゃと言ひあえるのが“あごら”的な場所も大事である」「例会も持たず、通信まで発行回数が減るとますます寂しくなっていくでは……」「通信といふ発表の場があるのは自分にはありがたい。大事にしていきたい」等々、さまざまな意見

が出て結論は出なかつた。それぞれメンバーが“あごらと私”を書くことになり、次回の会議(忘年会)でもう一度話し合いを持つことになった。

(細田 記)



# あごうとわたし

光陰矢の如し。「無理はないで細く長く」をモットーに(?) あごう札幌もはや  
18年となった。会員にとって「あごう札幌」とは何なのか; 特集を通して来し  
方をふり返ってみたい年の暮れ——であります。

## 『空気のよきもの—あごうは生活の一部です』 谷百合子

10年前、「あごう札幌」と出会って、「女はこうあるべき」という抑圧の壁を  
一枚一枚ドキドキしながらはいていった感動は今も忘れない。

私は70年代のリブの台頭期を経験していない「遅れて来たりブ」である。  
70年代のリブたちの多くが、女だけのリブの活動から離れて行つたが、私は遅  
れた分、交努力が大きいのか、年と共にますます女の運動の楽しさが増している。

あごう札幌からは、リブの思想だけではなく、実生活の上で、母の入院から  
葬儀に至るまで、(ほとんど)「あごう葬」のように会員諸姉にはお世話をした。

精神的にも、カッコイイ面だけ見せ合うのではなく、ぐちゃぐちゃした気持の整  
理が、必要な時も、頼むいいエミニストたちから適切なアドバイスしてくれる。

現実感覚を磨き、ひとりよがりにならないようにバランスを計る物差しとして、  
あごうは、私にとって必要な場である。

## (女のスペース・おんとの関係)

おんが発足したことは手放しておきたいことであるが、あごうのメンバーの半数が後  
わることになると、ただでさえ青息吐息の「あごう」である。いつの間に「あごう」は解散して「おん」に  
吸収された方がいいのだろうか? と「おん」のKさんに率直に聞いてみた。彼女は「とんでも  
ない。おんは各々の女たちの会で、更に活動できるためのネットワークなのだから「あごう」が  
消えでは困る」と話してくれた。「おん」は実働部隊である。「あごう」はビギナーであろ  
うが古参リブであろうが、女たちの日々の思いに光を当て、女たちの言葉をつないで  
いく場だと思う。「おん」とは、これからもいいチームプレイを組んでいきたい。

## (ウinxzの会)

力不足から「あごう」は例会なしの通信発行集団になり下がってしまった。確かに  
集にならなければ、同好会では発展かない。とりあえず集まれる人たちで「ウinxz」の  
会をスタートしたい。そのためのお葬り会や、抑圧などについてなど、女とこれまで  
決別する。既にスタートしている東京・大阪の女たちのグループと連携を取ってきた  
い。愚痴のこぼし合いに終わるのではなく、癒されるためのワークいろいろ学び、  
本来の力をとり戻していくよ。

# やっぱり存続させたい！

あごらとわたし

高橋 芳恵

“おんなエロス”を愛読し、集う仲間を求めて“あごら”（新宿）へ通うようになったのが始まり。あごらとの付き合いも山あり谷ありで、札幌に落ち着いてからも、もう16年になる。ここ数年、繰り返し繰り返し襲ってくる存続の危機。良いか悪いかは別にして、最早、ビギナーとは言えなくなっている私から見ると、その必要性はうすい。しかし、ビギナーというのは、いつの時代にもいるものだ。例えば、わたしも『障害者・問題』に関してはビギナーであり、障害をもつ友人と会ったり、学習会に参加したりして、大きく目を見開かされている。

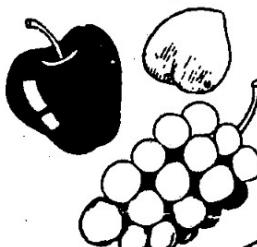
“あごら札幌”は、いろんな意味で存続させたいと思う。どういう形で存続が可能なのか、その為には、わたしに何ができるか、考えていきたい。



# 通信隔月発行にしたいのですが……

細田英理子

皆それぞれ気分、体調の波があると思うけど、私はこの一年、何となく元気ナシの状態だった。性教育等に関することで、人前でしゃべったり、原稿を書かなきゃならないことが多くて、それがストレスになっていたのだと思ふ。前は全然苦にならなかたあごらに關わる事務処理等もだんだんあくまでなってきた。皆も他の活動に忙しいし、来年からは通信を隔月発行にしてはどうかと考えている。ただこの間の通信編集会議では「だんだん後退していく、そのうち存続が危まれる状態になまのでは……」という意見も出ていた。やっぱりもうちょっと頑張った方がいいのかなと思ったり、ちょっと気持ちが搖れているところ……。



# あごらとわたし

袖

「あごら札幌」とのつきあいは、もう5年以上になるんですね。いろんな情報や「場」をもらって、とてもありがたかったし、自分の役に立ってくれたと思います。…う~ん…でも、この前、ふと思ったんだけど、あの“雰囲気”を“自分の身近に確保できた”ってことが、私にとって、一番大きな収穫だったのかもしれないな、なんて。考えてみたら、それまで、あまりあおっぴらに言えなかつたようなこと一強く言つたら白い目で(?)見られそうで、遠慮しながら口にしていたようなこと一が、会話の、わりとメインのテーマだつたりしてゐるね。フェミニズムっぽいこと言っても反感をかわずにすむ相手(そーゆう友人はいたんだけどね)、というだけでなく、みんながそういうこと、それぞれに自分で口にしてるんですもの。うれしくなつちゃうよねえ♪ほーんと(あ、でも、しかられてしまいそうという「こわさ」はあったかな)。んー、なーんか、あんまりポジティブじゃないなー。でも、正直に言うとそうなんだ。あごらが、ずっと続いてくれるうれしいな。

次号でも他のメンバーの「あごらと私」を載せます。通信購読者の方も感想や御意見をお寄せ下さい。

## 11月9日 福島瑞穂さんの講演大盛況!

従軍慰安婦のこと、夫婦別姓のこと、アジアから日本に働きに来ている女たちのこと、などなどを威勢のいい口調で元気いっぱいの福島さん。会場からも活発な質問が出て、分かり易く法律の問題にも答えてくれた。お母さんのことにも触れて、本当に彼女の人柄をしのばせるあつたかい話もしました。家庭生活面でのパートナーとのかかわりもしっかりフェミニストをしているようで、聞いている方もニコニコしてしまう。超多忙のようですが、健康に注意して、女のために法律もどんどん変えていってね。

12月  
忘年会  
案内

12月11日(土)頃を予定しています。  
(メンバーがたくさん参加できるように、  
今、日程を調整中です。変更がないか必ず  
事前に確かめて下さい。)  
時間: PM 6:00 ~  
場所: 細田さん宅  
(西区琴似1条6丁目1-25-408)  
☎ 644-2927

一品持ち寄り

お詫び: 先月号の安岡さんの原稿は、コウカウンセリングニュースからの転載でした。お詫びいたします。

# 女からだからフォーラムを終えて

「有名人でもないのに100人も200人も人を呼べるの?!」「赤字を出したら責任は?！」

「内容が明確でないから人に読えない！」等々、スタートから否定的な言葉の嵐で、消耗感の傷におそれながらも、丸幌CoCoauセミナーの仲間に支えられて、赤字を出さず、150名ほどの参加で、思通りの会を持ったとかで、スタートから協力して下さった、女のスペース・おんのKさん、女性センターのYさん、介護会のリーダーをひき受け下さった、あごらのHさん、仙台のKさん、デボラと迷歩、タシスのYさん、複産院の皆さん、ほんとうにありがとうございました。

ありのままの自分を肯定する。そこから本来の力ととりそびれていく

デボラとは5月に東京で初めて会ったが、何とスケールの大きい解放された人々なのだろうと思った。久しぶりに土の香りのするエミニストに出会えた嬉しさで、丸幌に呼ぶことになってほめた次第。迷歩は、人の命断を乗りこえるための理論と方法といつまでも、るために世界を飛びまわって活動している人である。この二人のパワーを中心とした命断されて、まる私たちの姿を見えてきたら幸い。

## 先ず、障人の話を聞く。それから解放のための第一歩。Lesson】

一見簡単に思えることか…実際、案外、難かしい。私たちは、相手の話を聞いているつもりでも、自分の意見を言いたくてはうやしない。スキヤアレバ、ああ言おうこう言おうと、う思って聞く…。子どもの頃、よく話を聞く、てもらえた人は、不安やないから、安心して人の話を聞く。しかし障外感、侮られないまま大人になった人は、その時の傷で恐怖とまじなから人の話を聞くことか…ある。ほとんどは聞くより先に訴えたりしない。このフォーラムでは障人の話を聞くという一見無茶に思えるけど、本来はそうできると、いうレッスンであった。神仙とも向かい合えるか…障人ととは向かい合えないところもいた。生まれて来た時は、この世を全て信じてきた！というパワーを思ふぞ！

## 話は尽きず、盛り上がりに分钟会

K子さんの「からだほぐし」は、感激で涙が出てきたという人が、沢山いた。種の思、二十分钟会は男性も数名入って時間切れでもまだ盛り上りっていた。デボラと迷歩のところでは、卓椅子の人たちの参加も多く大盛況！更年期の分钟会には、黒一点、産婦人科医のMさんもいて、具体的治療の話もあり、今後も又、やりたいという声が多くいた。ナント、某テレビ局から、私たちのところに「更年期」のことで取材依頼があり、ノリのいい私たち丸幌CoCoauセミナーグループは、これも又、しっかり準備して、パワフルにやり切った。このフォーラムをきっかけに、新しい人と、新しいことを、いっしょにスタートすることになつた感じらしい。

# 小づなは一步

「あごら札幌」編集会議のみなさまへ

春以後ずうっと、ごぶさたしています。お元気ですか？ 帰ってきましたら、あっと言う間に手帳のスケジュール欄が黒く埋まる生活に逆戻りしてしまって、せめて原稿だけでも書こう・・・・と思いつつ、今日まできました。今日は、近況報告もかねて私の職場での話題をお届します。

## \*その1：通称使用\*

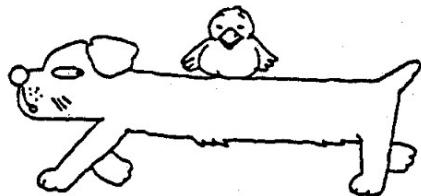
この話は、もう近況ではなくって3年位前の話です。うちの病院で女性職員2人が旧姓を通称として通用させるにいたるまでのエピソードです。

そもそもその事の発端は、私と組んでアルコール医療の中心を担っているPSW（精神科ソーシャルワーカー）が「結婚後もしごと上は旧姓で呼んでほしい」と言ったことから始まりました。彼女はフェミニズムということばは好きじゃないけれど、自分では古風、まだと思ってるみたいだけど、けっこうそういう発想をしちゃう、という人。ご存知のかたは少ないかもしれません、ソーシャルワーカーという仕事は営業職のように名前がとても大切な仕事です。様々な関係機関との連携をとる時、最後にものを言うのはそのワーカー個人が築いてきたネットワークです。そのときに相手の記憶にインプットされているのは「\*\*病院の##さん」という名字までがふつうですから、結婚による改姓なんて仕事ではデメリットでしかありません。それで彼女は「給料袋の名前なんかは戸籍の名前で結構ですが、せめて電話のとりつきなどでは旧姓を使わせてほしい」と言ったわけです。そのとき、同じセクションに属している臨床心理士もほぼ同じ時期に結婚することになり、彼女も同じ要望を出しました。



私は、これはスンナリOKが出ると思っていたのですが、甘かった。私がそう思ったのは、10年前に自分で旧姓を通称として使用しようとして諦めたときの経験からです。事実婚しちゃう度胸はなかったけれど、岡本のまま仕事を続けたい（学生時代も結構ノティブに動いて、友人知人が多かったので、そのネットワークを活かしたかったのです）と考えて、就職時に調べたんですよね。そこで分ったのは、「病院って資格社会だ」ということと「医者は、医籍に登録されている戸籍名でしか、実質的には仕事ができない」ということです。保険診療では、全国一律、その医療行為ができる職種を明記して「\*\*をすると##点」（1点10円で計算）という形で診療報酬が支払われるシステムになっています。例えば、精神科退院時指導料200点は「入院期間が1月を超える精神障害者である患者の退院時に、当該患者又はその家族等に対して退院後の療養上の指導を行った場合に算定する」「医師以外の者が指導を行った場合は、算定できない」と診療報酬点数表に書いてあります。そして、この場合の医師とは、戸籍名で登録された保険医を指すのです。資格による業務独占や名称独占がある職種は、それで病院に金が入るという強みがあるかわりに国家による管理統制も厳しくなるのです。彼女たちの職種は、現時点ではそういう統制からは自由ですから、旧姓を使用しないことでの業務上の不便がストレートに評価されると思ったのですが・・・

彼女たちのセクションの直属上司は「\*\*さん、あ、ちがった、もう##さんだったねえ」などとイヤミな言動にでるし、事務サイドも戸籍名でしか対応しないという態度だけで、1~2ヶ月はワヤでした。私は、個人的には彼女らと「こんな当たり前の話にどうしてOKが出ないのかしら」と言いつつ、自分からは公にこのことを取り上げる勇気がなく経過していました。



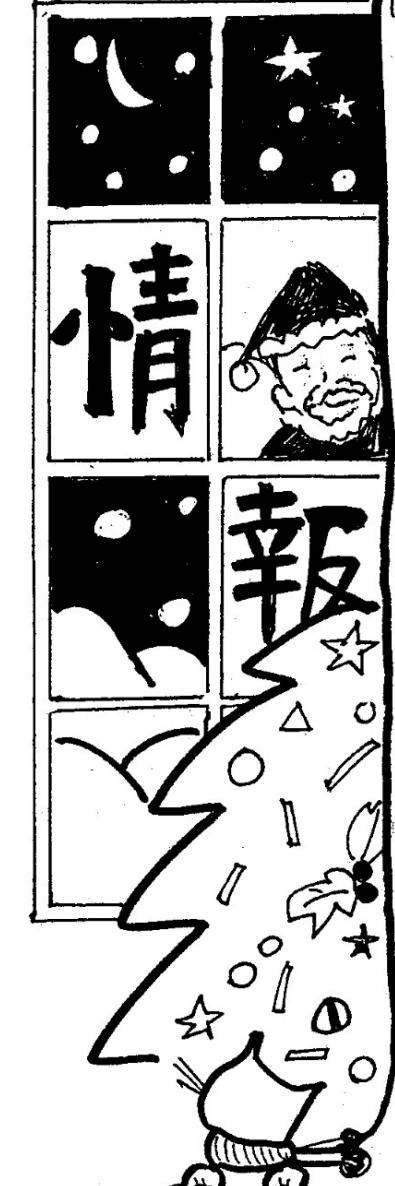
そんなある日、医局会議である年配の男性医師が「私はどっちでもいいけど、少なくとも本人達は業務では旧姓で呼んでほしいと望んでいるようだし、現場で混乱しているようだ、早く決着をつけてほしい」と口火をきって管理部に注文をつけてくれたので、ありがたく尻馬にのって”応援演説”をぶちました。

「（前略）バーやキャバレーじゃあるまいし、\*\*病院の##子で相手が覚えているわけはないんですから。彼女がワーカーとして積み上げてきた16年間の実績とネットワークを考えたら、少なくとも電話のとりつきといった部分では旧姓で通したほうが混乱は少なくなると思います。それをあえて『\*\*さん、じゃなかった、##さん』なんて呼ぶのは単なるいやがらせとしか、私には見えないのですが（後略）」といった話が事務サイドに伝わったときは「K先生はセクハラだと言った」「K先生って、おっかねえ」という話になっていたそうです。「わたししゃ、セクハラのセの字も言った覚えはないんだけどなあ・・・」と感想をのべると、上記の状況を教えてくれた女性職員が「先生が言ったことって、すごく彼等には脅威だったみたいだよ」と解説してくれましたが。

それから3年たちました。2人とも現場では通称で通しています。電話の取り次ぎ、白衣につける名札、スタッフ間での呼び名などはすべて旧姓です。現場では、もはや何の違和感もありません。そして、そのことは「結婚=女が名字を替えること」という、うちの職場で根強くあった固定観念に大きな風穴をあけました。今も私がひそかにカチンときているのは、職員名簿がしつこく戸籍名になっていることですが、それも変わる日がくるだろうと思います。

(岡本いもみ)





- 12/1 世界エイズ"Dayエイズ"・バトルトーナメント**  
 3人の男たちが、エイズ・性・セクシアリティを話し合う  
 (木) 女性セミナー 第一研修室 PM6:30~ 300円  
 おのせレントリーの宇田川さんもお話しします!  
 主催 レッドリボンさっぽろ 7/26~7/31
- 
- 12/4 「大地にはぐくむ育てあい」 黒岩秋子講演**  
 (土) 子供も大人も、障害を持たない子も登校拒否児も、共に生きる。共に生きることで、まちや学校や、地域が変わる。  
 北海道教育会館 札教組女性部(561-2278)  
 13:45分~ 無料
- 
- 12/4 「札幌市における健康保険の扶養認定・家族手当の男女差別②」「道内企業における健康保険の扶養認定・家族手当の男女差別」**  
 (土) 当の男女差別②「道内企業における健康保険の扶養認定・家族手当の男女差別」  
 主催ラジオ:ユーロ 場所女9スベース・おん(622-6404)  
 PM 6時~ 8時 500円
- 
- 12/4 「原発安樂死のすすめ」 木崎田敦 講演**  
 木崎田エトロジーは世界的に有名。「石油文明の次は何か」「エコロジーとエコロジー」「環境保護運動はどうやって進んでいるのか」著書多数。  
 市民会館 6:30 主催 住民会議 500円  
 連絡 746-2801 ひらひら
- 
- 12/5 「ちかに聞く、カンボジアの苦難の歴史と希望」**  
 (木) カンボジア人権協会の2人のお話を 前売500円  
 PM 6時半 当日 1000円  
 市民会館第1会議室 主催カンボジア友人会
- 
- 12/8 「アダルトビデオの問題点を考える」**  
 (土) 実際のAVを見た後 話し合います。  
 女性センターLL研修室 500円  
 主催 性教育かいしゃリサークル(644-2927)木崎田
- 
- 12/23 「天皇制と日本戦後責任」 管孝行講演**  
 (木) かで32・7 13:30~ カオハ 500円  
 連絡 561-5377(川野)

性教育の学習会でアダルトビデオの問題点を話し合うことになったので友人から16本もAVを借りてみました。毎日3本づつ見て疲れた……。1本目だけはあんまりみたけど、あとはほとんど早送り。それでも内容がわからず(内容なんてないか……)カスコイ!(E子) Eさんはなんたってあじらの要であるか、時々、うつすらと「ウツ」になる。(実体は食っちゃ寝)。あじらの危機は彼女の「ウツ」と共に襲って来る。いつでも助けてに行くから「ウツの時は叫んでよね(やりこ) E子さん、今回もうダメヤセ!。(K子)